

半日ある記

寺田寅彦

青空文庫

九月二十四日、日曜日、空よく晴れて暑からず寒からず。数学

の宿題も午前の中に片付けたれば午後半日は思うまま遊ぶべしと定まれば昼飯待遠し。今日は彼岸にや本堂に人数多集りて和尚のあまたしょうみよう

名の声いつもよりは高らかなるなど寺の内も今日は何とな

く賑やかなり。線香と花^う估るゝ事しきりに小僧幾度か^{ほうき}箒引きずつ

て墓場を出つ入りつ。木魚の音のポンくたるを後に聞き朴ほおば齒の

木履カラつかせて出で立つ。近辺の寺々いずこも参詣人多く花屋

の店頭黄なる赤き菊蝦夷菊堆し。えぞぎゝすたかとある杉垣の内を覗のぞけば立ち並

ぶ墓碑苔こけ黒き中にまだ生々しき土饅頭どまんじゅう一つ、その前にぬかずき

て合掌せるは二十前後の女三人と稚き女の子一人、いづれも身な

り賤し^{いや}からぬに白粉^{おしろいけ}気なき耳の根色白し。墓前花堆うして香煙
空しく迷う塔婆^{とうば}の影、木の間もる日光をあびて骨あらわなる白張
燈籠目に立つなどさま／＼哀れなりける。上野へ入れば往来の
人ようやくしげく、ステッキ引きずる書生の群あれば盛装せる御
嬢様坊ちゃん方をはじめ、自転車はしらして得意気なる人、動物
園の前に大口あいて立つ田舎漢^{いなかもの}、乗車をすゝむる人力^{じんりき}、イラ
ツシヤイを叫ぶ茶店の女など並ぶるは管^{くだ}なり。パノラマ館には例
によつて人を呼ぶ楽隊の音面白そうなれば吾^{われ}もまた例によつて足
を其方^{そちら}へ運ぶ。また右手の小高き岡に上つて見下ろせば木の間に
つゞく車馬老^{ろう}若^{やく}の絡繹^{らくえき}たる、秋なれども人の顔の淋しそう
なるはなし。杉の大木の下に床^{しょうぎ}几^ぎを積み上げたるに落葉やゝ積

りて鳥の糞の白き下には小笹生い茂りて土すべりがちなるなど雑ざつとう

鬧の中に幽趣なるはこの公園の特徴なるべし。西郷像の方へ行きたれども書生の群多くてうるさければ引きかえしパノラマ館裏手の坂を下る。こゝは稍静かなれど紅塵ようやく深く鉄道構内の煤煙風に迷うもうるさし。踏切を越えて通りかゝりし鉄道馬車にのる。乗客多くて坐る余地もなければ入口に凭もたれて倒れんとする事幾度。公園裏にて下り小路こうじを入れば人の往来織るがごとく、壮士芝居あれば娘手踊ておどりあり、輕業カツポレ浪花踊なにわおどり、評判の江川の玉乗りにタツタ三錢を惜しみたまわぬ方々に満たされて囃子はやしの音ただ八ヶまし。猿に餌をやるどれほど面白きか知らず。魚釣幾度か釣り損ねてようやく得たる一尾に笑靨えくぼ傾くる少年帰つてオツ

カサンに何をはなすか。写真店の看板を見る兵隊さん。鯉に魅^ふを
投ぐる娘の子。凌^{りよう}雲閣^{うんかく}上人^{じょうじん}豆のごとしと思う我を上より見
下ろして蛆^{うじ}のごとしと嘲りし者ありしや否や。右へ廻れば藤棚の
下に「御子供衆への御土産一銭から御座ります」と声々に叫ぶ玩^お
もちやう
具売りの女の子。牡丹燈籠とかの活^{いき}人形^{にんぎよう}はその脇にあり。
酒中花^{しゅちゅうか}欠皿^{かけざら}に開いて赤けれども買う人もなくて爺^きが煙管^{きせる}しき
りに煙を吐く。蓄音機今音羽屋^{おとわや}の弁天小僧にして向いの壮士腕を
まくつて耶蘇教^{やそきよう}を攻撃するあり。曲書きのおじさん大黒天の耳
を書く所。砂書きの御婆さん「へー有難う、もうソチラの方は御^お
済^{すみ}になりましたかなー、もうありませんかなー。」へー有難うこ
れから当世白狐伝を御覧に入れる所なり。魔除^{まよけ}鼠除けの呪文、さ

ては唐竹割からたけわりの術より小よりで箸を切る伝まで十銭のところ三銭
 までに勉強して教える男の武者修行めきたるなど。ちと人が悪い
 ようなれども一切ただ只にて拝見したる報いは覲てきめん面、腹にわかにか痛
 み出して一歩もあゆみ難くなれり。近きベンチへ腰をかけて観音
 様を祈り奉るにわかしんじん俄信心れいげんを起すも靈験のある筈なしと顔をしか
 めながら雷かみなりもん門いを出づれば仁王の顔いつもよりは苦にがし。仲見世
 の雑ざつとう鬧は云わずもあるべし。東あずまばし橋に出いづ。腹痛やゝ治まる。
 向うへ越して交番に百花園ひやつかえんへの道を尋ね、向島堤上の砂利を蹴
 つて行く。空いつの間にか曇りてポツリ／＼顔におつれどさした
 る事もなければ行手を急いで上へ／＼と行く。道右へ廻りて両側
 に料理屋茶店など立ち並ぶ間に行く。右手に萩の園と掛札ある家

を、これが百花園かと門内を覗^{のぞ}くに、どうやら変なれば、客待ちの車夫に問うに、百花園はまだずっと先なり。大倉の別荘の石垣に、白赤の萩溢るゝがごときに、二輛の馬車門を出でて南へ馳せ去りたる、あれは喜八郎の一家か、車上の男女いたく澄まし顔なるが先ず癪に触りける。三^{みめぐり}圀^{いなり}の稻荷堤上より拝し、腹まだ治まらねば団子かじる気もなく、ようやく百花園への道札見付けて堤を右へ下り、小溝に沿うてまがりくねりの道を行く半町ばかり。道^{みち}傍^{ばた}、溝^ほの畔^{とり}に萩みだれ、小さき社の垣根に鶏^{けい}頭^{とう}赤きなど、早くも園に入りたる心地す。

この辺紺屋多し。園に達すれば門前に集^{つど}う車数知れず。小門清^せ楚^{いそ}、「春夏秋冬花不斷」の掛額もさびたり。門を入れば萩先ず目

に赤く、立て並べたる自転車おびたゞし。左脇の家に人数多集い、
 念仏の声洋洋たるは何の弔いか。その隣に樂焼らくやきの都鳥など売る
 店あり。これに続く茶店二、三。前に夕顔棚ありて下に酒酌む自
 転車乗りの一隊、見るから殺風景なり。その前は一面の秋草原。
 芒すすきの蓬々たるあれば萩の道に溢れんとする、さては芙蓉ふようの白き
 紅なる、紫苑しおん、女郎花おみなえし、藤袴ふじばかま、釣鐘花つりがねばな、虎の尾、鶏頭、
 鳳仙花ほうせんか、水引みずひきの花さま／＼に咲き乱れて、径みちその間に通じ、
 道傍に何々塚の立つなどあり。中に細長き池あり。荷葉半ば枯れ
 なんとして見る影もなきが一ひとしお入秋草の色に映りて面白し。春夏
 の花木もあれども目に入らず。しのぶ塚と云うを見ているうち我
 を呼びかける者あり。ふりかえれば森田の母子と田中君なり。連

れ立つて更に園をめぐる。草花に 処々 ところどころ 釣り下げたる 短冊 たんざく 既に面白からぬにその裏を見れば鬼ころしの広告ずり嘔吐を催すばかりなり。秋草には束髪 そくはつ の美人を聯想するなど考えながらこゝを出でたり。腹痛ようやく止む。鐘が淵紡績 かね ふちぼうせき の煙突草後に聳え、えんとつ 右に白きは大学のボートハウスなるべし、端艇 ポート を乗り出す者二、三。前は桜樹の隧道 ずいどう、花時思いやらる。八重桜多き由なれど花なければ吾には見分け難し。植半 うえはん の屋根に止れる鳶 とび 二羽相對してさながら瓦にて造れるようなるを瓦じや鳥じやと云ううち左なる一羽嘲るがごとく此方 こつち を向きたるに皆々どつと笑う。道傍に並ぶ柱燈 じんどう 人造麝香の広告なりと聞きてはますます嬉しからず。わたしは 渡頭に下り立ちて船に上る。千住 せんじゅ よりの小蒸気けたゝましき

笛ならして過ぐれば余波舷ふなばたをあおる事少時。乗客間もなく満ちて
 船は中流に出でたり。雨あまもよい催いの空濁江に映りて、堤下の杭に漣れ
 漪い寄いするも、蘆荻ろてきの声静かなりし昔の様尋ぬるに由なく、渡番わたしば
 小屋んごやにペンキ塗の広告看板かゝりては簑打みのち払う風流も似合う
 べくもあらず。今戸いまだの渡と云う名ばかりは流石さすがに床ゆかし。山谷堀さんやぼり
 に上がれば雨はらくと降り来るも場所柄なれば面白き心地もせ
 らる。さりとして傘持たぬ一同、たとえ張子ならずとも風邪など引
 いては面白からねば大急ぎにて雷門前まで駈け付く。先を争いて
 馬車に乗らんとあせる人狂氣のごとく、見る間に満員となりて馳
 せ出せば友にはぐれて取り残さるゝ人も多し。来る馬車もく皆
 満員となりて乗る折もなし。婦人連れの事なれば奮発してようよ

う上等に乗ればこれもやはりギシつみにて呼吸も出来ざるをようようにして上野へ着けば雨も小止みとなりける。こゝに一行と別れて山内に入る。

人ようよう散じて後れ帰るもの疎^{まばら}なり。向うより勢いよく馳せ来る馬車の上に端坐せるは瀟^{しょう}洒^{しゃ}たる白面の貴公子。たしか『太陽』の口絵にて見たるようなりと考うれば、さなり三条君^{きみ}美^みの君よと振返れば早や見えざりける。また降り出さぬ間と急いで谷中^{やなか}へ帰れば木魚の音またポンくく。

(明治三十二年九月)

青空文庫情報

底本：「寺田寅彦全集 第一巻」岩波書店

1996（平成8）年12月5日発行

底本の親本：「寺田寅彦全集 第一巻」岩波書店

1985（昭和60）年7月5日第3刷発行

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。

入力：Nana ohbe

校正：松永正敏

2004年3月24日作成

2016年2月25日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

半日ある記

寺田寅彦

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>